

資料 1-2

成年熟年期部会 開催日：R1.8.22（木）

令和元年度 第2回 香南市人生支援計画 成年熟年期 部会報告書

（本部会での取り組み、テーマについて ほか）

◇ 部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ振興協議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	欠
3	◇	大野 英明	山北地区まちづくり協議会	出
4	◇	村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5	◇	尾崎 俊夫	社会教育委員	出
6	◇	山中 節子	香南市図書館協議会	出
7	◇	白石 令子	香南市社会福祉協議会	出
8	◇	大庭 静子	食生活改善推進協議会	出
9	◇	中元 二三四	健康推進員協議会吉川支部	出
10	◇	西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	小松 靖生	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3	◇	原 敬子	//	出
4	◇	国松 士晃	生涯学習課	出
5	◇	松村 千賀子	福祉事務所	欠
6	◇	田中 彰裕	人権課	出
7	◇	寺内 潤	環境対策課	出
8	◇	岡林 栄一	商工水産課	出
9	◇	岩田 由子	地域支援課	欠
10	総括	岡本 修	//	出
11	//	久武 正和	//	出
12	//	藤原 奈央	//	出

☆ 成年熟年期部会の開催内容

◎ 開会

◎ 挨拶

◎ 議事内容

1. 本計画及び部会の方向性について

事務局及び地域支援課より説明

2. 令和元年度第1回香南市人生支援計画策定委員会の報告について

令和元年7月11日開催の第1回策定委員会に出席した部会長より報告

3. 本部会での取り組みについて

計画（施策）に対しての意見、テーマに関連する意見

4. その他

◎ 閉会

1. 「本部会での取り組みについて」に対して出された意見

■まちづくり

○コミュニティ

- 地域のリーダーとしての思いをもってコミュニティづくりをしていったらよい。それに行政が参加していくとよい。
- コミュニケーションがとりやすい地区では高齢者がこもってしまわないよう、公民館を開けてもらって気楽に集まって話ができる場をつくっている。集まることによって地域の人を知ることができ、生活の状況が分かるし、地域の方が自分のことを気にかけてくれていることがわかる。例えば、行政が生活習慣病について注意等と呼びかけても、自分のこととして市民が受け止めないと。
- 地域活動で1つ注目しているのは、集落活動センター事業。西川地区は月1回のサロン、春の花まつりや、岸本はチューリップの祭りなど、地域の人たちが参加してのコミュニティを作っている。地域の人が集まってイベントを通してコミュニケーションを図っていくことができるようにすることが重要。
- 市計画と市民がつながるためには自治会が活動することが必要。自治会が集まりを企画して、地域の人が集まると地域の人を知ることができる。そうすれば、災害が起こったとしても助け合うことができる。昔はそれを地域でできていたが、今は個人個人なので（市が）施策として行わないとできないのではないかと。行政施策の評価と市民参加型の施策の提案が必要。
- 若い人が町内会へ入らないという問題がある。強制的なルールがあり、田役への参加、参加しなかったペナルティとして罰金があるなど、ストレスになることがあると聞く。

【地域支援課】⇒市はまちづくりの組織化を進めている。12年たって、考え方が地域によって違うが複数の町内会組織による自治会の組織化を進めている。従来のものを進めているところもあるし、新たなものを作っているところもある。防災を目的に自主防災を作っているところもある。地震をきっかけに自主防災組織をたくさん地域が作っている。地域によってそのコミュニティの役割がある。

- 月1回でも集まることによって、引いては防災対策にもなるし、行政の情報を知ることでもできる。地域コミュニティは大事。

【地域支援課】⇒集落活動センターがしっかり立ち上がっている西川地区は過疎化防止対策も含め地域活性化を目的に約5年間取り組んでいる。運営していくには地域がまとまるのが大事。経済性とか過疎化防止対策に対してはよいが、コミュニティづくりということに関してはまちづくり協議会を通してしていただけたらと思う。

- 市がいろいろ施策を作ってくれているのに、市民が乗っかったらいいと思う。すでにあるものを市民が広げていくことが必要。地域の代表の方と話をすることで、例えば農業の研修生であれば、研修生同士の交流はあるだろうが、地域の一員としての仲間意識であるとか、そういったつながりはないのではないかとと思われる。

【地域支援課】⇒自治会向けに行っている研修会などで促していく。皆さんの意見を聞いても、関心

が高いと思われるので現状などを含め広報していく。

【地域支援課】⇒町内会への加入促進は、市民保険課と連携して町内会長への周知や支援を提案している。

○世代間交流

- ・徳王子のお祭りは300人くらい来るが地域外から来る人も多い。13年間まちづくりをしているが、夏祭りは子どもたちも集まるし、地域で行事をしたらよいと思う。
- ・子どもたちにお祭りに参加する経験をしてもらいたい。敬老会も75歳以上を招待したが、現状では招待する側も同じような年代である。
- ・縦の年齢間の交流がない。地域での行事参加が増えると、地域の人からの声かけがある。世代間のつながりをつなげていくのは地域だと思う。

【地域支援課】⇒自治会向けの研修会などで、世代間交流を図る行事の有効性を周知している。

(⇒生涯学習課へ文化の伝承も踏まえて繋ぐ)

■高齢期への備え

○熟年期に意識しておくこと

- ・高齢になる前に、どういうことに気を付けて行ったらよいか、教育というか講演とか知識を与えてくれるような機会を作ってもらえたらと思う。公共交通機関の利用の仕方の訓練や、社会問題にもなっているので早く車を降りる、車に乗らないで生活する方法を訓練したり、情報を与える機会を作っていただけたら。ネットワークづくりや車に乗らなくなった時と乗った場合の費用の比較のこととか。生きていくための財政面に関すること、詐欺対策とか指導があれば、どのような心構えが必要かを知る機会をどう作っていくか？高齢化に向けた様々な講習会ができれば良いと思う。
- ・高齢期に向け、食べることや運動をすることが大事。なんでも人がやってくれるということではなく、図書館など公共の施設を利用して、大人も絵本の部屋もあるので、身体が動くうちに自分がどうしたら楽しめるかを考えておくことも大事。また、元気な人向けだけではなく、あまり運動ができないような方にもリラックスした市民ウォーキングの企画を。その時には市バスも出してもらえるといい。市の良い計画をどう利用していくか、まちづくりに結びつけていくか？

【地域支援課】⇒人生支援の高齢期部会で公共交通については話が出ている。免許返納になる頃には公共交通機関を利用できなくなるということもある。高齢期部会で、地域ボランティアとして講演会を行うとか、昨年から話題に上がっているがまだ煮詰まっていないような状態と聞いている。

■健康増進

○運動習慣

- ・各旧町村でウォーキングを持ち回りでやっているが、市全体でしたら良い。事前申込を当日申込に変更したら今まで参加していなかった人も参加してくれた。その方が転倒したが、それがきっかけで保健師とつながりができ、健診へ来るということがあって、結果的によかった。
- ・若い人の運動習慣が少ないので、運動習慣をつけるような取り組みを考えるとか・・・。
- ・こうなんスポーツクラブの利用を夕方仕事帰りに参加できるものを計画してほしい。また、香南市内の就職先、働ける場を提供できるものであればよい。

・子どもの話や高齢者の話はあるが、成人の話がすぼっと抜けているなど感じる。成年熟年の年代が忙しいからといって放っておいていいのか。メタボ予防のための運動習慣をつけさせる施策が必要ではないか。忙しい年代だからと那些人たちをそのまま無視していいのか。その辺りがターゲットになるのではないか。

【生涯学習課】⇒スポ少はかなり積極的な活動をしている。こうなんスポーツクラブは南国市について大きな組織で、市民の意見を基に夕方から通える教室を開催したりと評価できるものだと思う。主催する組織をどう組み立てていくのかという問題があるが、日常活動の中に参加できるものがあればいいかと思う。

■人権啓発

・目に見えない、発達障害などへの理解が進んでいないように思うので、そういった障害があることや障害の特性に応じた配慮の仕方の啓発も必要では。

【人権課】⇒人権教育に関しては、人権課と生涯学習課で啓発や研修を行い今後も取り組んでいく。

■ごみ問題

・ごみを集積場へ持っていくことも、高齢になったり障害が出てきたら困難になると思う。東京の吉祥寺では各家の前にごみを出して収集をしていたので、それはいいなと思った。ごみ問題は高齢者の問題だけではないので。

【環境対策課】⇒ごみを各戸前で収集という話は、交通の問題もあるので難しいとは思いますが、これからの課題として伺わせていただく。

■施策展開

・健康でも病気でも楽しく暮らせないといけないと思う。健康でない人も暮らせる施策が必要。今は、地域（の役割・システム）が壊れている。「地域で楽しく」の何が楽しいのかということを考えていかなければいけない。

・地域それぞれの特徴があるので、その地域の特性と施策をどのように結び付けていくのが問題。
・地域が壊れているというご意見でしたが、お祭りなどを立ち上げるなど、人が参加していく機会をつくるのは良いと思う。野市もこどもフェスタを昔やっていたが、自主的にすると誰かやるのかどこでやるのかという問題が出てくる。

【部会事務局】⇒施策は市民全体に公平にしなければならないが、この部会で皆様から意見を出してもらい、それを部会全体で揉みながら実行できそうなことから議論していければと思う。

2. 次回の部会に向けて

【事務局提案】

・どのようなことを、どのような考えに基づいて施策化していくのか、意見を出していただく。委員さんは、各団体に属して様々な声も集まりやすく、若い世代では気づかないことも経験している年代の方が多い。そういう意見を部会で出していただき、部会全体で実行に向けて進めていけ

ればと思います。

次回の部会には、部会の皆さん全員に取り上げてもらいたいテーマを1つは持参してきていただきたい。

※幼年就学期や高齢期と違い、その間を埋める幅広い年代で、しかも多忙かつ多様な生活環境に置かれている年代であるため、テーマの更なる絞り込みが必要。

2-1.次回以降の部会で協議が必要な事項

■まちづくり（地域で暮らす）に関すること

●コミュニティについて

⇒市の各施策に市民の方から自分のこととして認識をするように更なる啓発が必要。

⇒若い人が町内会に入らないという問題があり、集まりが高齢化、希薄な現状をどうするか。

●世代間交流について

⇒縦の世帯間の交流が無い。（少ない）更なる啓発が必要。

■高齢期への備え

●高齢になる前の学習。

⇒公共交通機関利用や詐欺対策、食事や運動の講習の開催を充実することが必要。

■人権啓発

⇒目に見えない、発達障害等、障害や特性に応じた配慮の仕方等の啓発が必要。

■ごみ問題

⇒今後、高齢・障害による、ごみ出し困難化への対策が必要。

成年熟年期部会 開催日：R1.11.20（水）

令和元年度 第3回 香南市人生支援計画 成年熟年期 部会報告書

（令和元年度香南市人生支援計画の進捗状況（10月末実績）について ほか）

◇ 部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ振興協議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	欠
3	◇	大野 英明	山北地区まちづくり協議会	出
4	◇	村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5	◇	尾崎 俊夫	社会教育委員	欠
6	◇	山中 節子	香南市図書館協議会	出
7	◇	白石 令子	香南市社会福祉協議会	欠
8	◇	大庭 静子	食生活改善推進協議会	欠
9	◇	中元 二三四	健康推進員協議会吉川支部	欠
10	◇	西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	小松 靖生	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3	◇	原 敬子	//	出
4	◇	国松 士晃	生涯学習課	出
5	◇	松村 千賀子	福祉事務所	出
6	◇	田中 彰裕	人権課	出
7	◇	寺内 潤	環境対策課	欠
8	◇	岡林 栄一	商工水産課	欠
9	◇	岩田 由子	地域支援課	欠
10	総括	岡本 修	//	出
11	//	久武 正和	//	出

☆ 成年熟年期部会の開催内容

◎ 開会

◎ 挨拶

◎ 議事内容

1. 人生支援計画数値目標及びKPI評価（10月末実績）について

KPI評価書をもとに各課より説明

2. 第1.2回部会での意見等について

第1回及び第2回部会等で出された意見のまとめをもとに事務局より説明

3. テーマの絞り込み及び深掘りについて

前回決めたテーマ『健康で楽しく地域で暮らす』を更に絞り込むための議論

4. その他

◎ 閉会

1. 「人生支援計画数値目標及びKPI評価（10月末実績）について」 に対して出された意見

■NO.42「運動習慣（20～39歳）」

- ・今年度、目標を落としているが、何パーセントは確保したいという目標として掲げ、下げるべきではないと思います。数値では見えないカーブスなどの数値があるのではないかと。

【健康対策課】⇒若い人の運動率は分からなかったので30～35%としたが、その年代の人は、生活、育児、家事と忙しく目標に届いていません。もともと目標設定が実態に沿っていたかということもあり目標率を下げている。42で出している率は健診を受けた人の運動を把握したものなので、全体の中ではスポーツクラブやNPO、民間の団体を利用している人はいるかと思うが、民間での団体を利用している人数を把握することは難しいかと思う。

■NO.44「障害者虐待相談」

- ・H30だけ115という数値を出しているのはどうしてか。

【福祉事務所】⇒H30年に115という数値をだしたものの、これに関して、目標を出すのは難しく、今年度からは出していません。

■NO.49「地域おこし協力隊」

- ・任期は3年間か。同じ人が入ってくることはあるか。農業の担い手などが定着する可能性はあるか。

【地域支援課】⇒同じ人が入ることはありません。各課で必要な人員を募って募集をかけている。農林課では有害鳥獣のハンターなど、他にも農業指導の援助はしています。

【地域支援課】追記⇒農業担い手候補生（みかん）の定着が見込めます。

■NO.58「障害者の社会参加のための外出支援」

- ・社会参加のための外出支援は、目に見える身体障害には対応できるが、発達障害やLGBTなど目に見えない障害者への対応など底上げしていくような対策を考えなければいけないと思う。

【福祉事務所】⇒そういう意見も踏まえ課題として伺わせていただく。

■保健師の訪問

- ・昔は保健師がよく訪問してくれていたが、近年、地域で保健師の姿を見なくなったように思う。現在の保健師の業務は幅広く、妊婦とか・・・大変だと思うので、年代を決めて訪問するとか焦点を絞った取り組みはできないか。住民意識の問題もあると思うが、若い時は健康に関心がないので、どうやって意識づけるかが難しいとは思う。

- ・健康推進員では、医療に関する知識が乏しいので、保健師の退職した人、行政だけでなく民間病院にいた看護師や保健師で退職された方を雇ってはどうか。保健師が地域にいたほうがいいと思うし、保健師が訪ねてくるという噂が広がったら、健診へ行こうということになるかもしれない。

【健康対策課】⇒以前はよく個別訪問をしていたが、合併後、各種事業も増え国からの決められた事業に追われ保健師が地域に出向く時間が取れていません。平成27年度から乳幼児健診については発達障害に対し重点的に取り組みを行うことになり、正常児を除いて、それ以外をフォローしなければならず、訪問の7割は乳幼児に対するものとなった。その

ような事業の変化があり、なかなか成人には対応できていませんが、ポイント訪問として、新40歳になった人、100人くらいに対しては訪問をして健診へ来てくださと呼びかけを行っている。夜間健診も受診者の増加につながらなかった結果もあり、現在は休日健診を行っている。セット検診にし、「働き盛り健診」を行い、若い世代の受診勧奨に取り組んでおり、来年度は休日健診の日数を増やそうかと話をしているところです。

【健康対策課】⇒未受診者訪問などができるよう、退職した方などを雇うことができるように予算を組むことを予定している。

■成年期の血液検査など

・20-39歳の健康施策として、ワンコインで血液検査だけでもすれば展開に広がりができるのではないかと。若い人が集まる場所へ出向き何か行動を起こすことを考えてはどうか。様々なテーマで夜間、情報提供として講演会を行うとか。献血をしたら結果を返してくれるので、自身の健康状態を把握できる。

【健康対策課】⇒毎年、フジと健康イベントのタイアップを行っており、年1回、金土日の3日間、血圧測定、体組成測定を行うほか、薬剤師会にも来てもらってイベントを行っている。
(血液検査は感染リスクがあるため未実施)

■起業のアドバイス

・学校を卒業して地域にいるには仕事がない。地域を活性化させ、出ていく人を引き留めるには、起業のプロフェッショナルな人を一本釣りして雇い、講演をしてもらうなどして企業を起こしてもらうことにつながれば良いと思う。(⇒商工水産課(産業振興計画)へ繋ぐ)

2. 「第1、2回部会での意見等について」に対して出された意見

■健康増進(運動習慣)

○ウォーキング

・ウォーキングにするかジョギングにするか、また単発にするか、継続的なものにするのか、参加した人のコミュニケーションはどのように考えたらよいのか。
・吉川は毎年秋にまちづくり協議会でウォーキングをしている。今年は市のウォーキング大会が吉川であるので合同で3月に行いますが、人と一緒のペースでは歩くのが難しい人もいる。

【健康対策課】⇒健康対策課では手っ取り早くできるのはウォーキングではないかと思い、H27以降、委員の方に意見をいただき、旧5町版マップ、市全体版マップを作成し、健診やまちづくり協議会などへ配布、周知している。そのコースを利用したウォーキング大会を毎年3月に各旧町持ち回りで開催している。(今年度は吉川の物部川堤防コースの予定で、吉川まちづくり協議会にも協力を得て開催予定)。周知方法は広報等でお知らせし、必要であれば送迎バスも考えている。昨年は虚弱な人も参加できるように近道ができるコースも作っていました。健康づくりにつながるように少しでも入口が多いほうが良いと思い、県の健康パスポート事業に付随した香南いきいきチャレンジ事業も行っており、運動を

記録し達成の申請をしていただくことで、健パスのシールを渡してポイントを貯めていただくようにしている。それは、香南市観光協会とタイアップして、シール一枚につき1ポイントで10ポイント集めていただくと500円のクーポン券をお渡しし、香南市観光協会のカタログに載っている商品と交換できますので、健康パスポートをきっかけとして運動習慣をつけていただけたらと思う。マップもまだ市民全体には啓発できていないので、増刷しながら広めていきたい。

【生涯学習課】⇒生涯学習課では秋に安芸市、芸西村と一緒にツーデーウォークを行っていて、広報で周知している。香南市の距離は15km、25kmと長く、また参加者がほぼ県外の方という状況ですが、せっかく地元で行っていますので、市民の方は参加料を安くするなどして参加者を増やせないか検討しようと思っている。

○ラジオ体操

・ウォーキングは杖をついている方には難しいので、ラジオ体操がお勧め。毎日しないと動けなくなるので、継続が大事かと思いますが、ラジオ体操はお金も身体にも負担がかからず良い。

■高齢期への備え

○市営バス

・今車に乗っている人も市バスに乗ってみたら良いと思う。市に対してあれしてこれしてというだけでなく、市民も乗ってみて、どうしたら市バスを使っていけるか考えてみたら良い。せっかく税金を使っているから有効に利用した方がいい。市バス検討委員もみんな乗ったことがないと言っているし真剣にバスのことを考えている人がいない。市バス要望があったから走っていると思うが本数が少ない。公共交通機関がないことによって過疎が進んでいくことが懸念される。

【地域支援課】⇒市バスの本数、コースはご意見を反映しつつ改正をしていきたいと考えており、その聞き取り時間帯も地域の集まり等に合わせて行い、声を集め、精査しながらやっていきたいと考えている。

【地域支援課】⇒利用者が少ないうえ人件費もかかるため収支プラマイを近づけられるのは難しい。運転手の確保や運行時には休憩時間の確保も定められているため、大幅に本数を増やすことは難しいと思う。

3. 「テーマの絞り込み及び深掘り」に対して

今回はテーマの絞り込み及び深掘りに関しては、時間の都合上、意見を集約するところまでに至らなかった。

【今後の方向性】

・これまで出された意見の中で「健康＝ウォーキング＝誰でも行いやすい」という共通認識があったので、次回、現行施策のバージョンアップ化（既に健康対策課で行っているが、更に改善）などを詰めていけば成果として出せると考えられる。

4. 次回以降の部会で協議が必要な事項

- 「部会テーマ」具体化

- ⇒「健康＝ウォーキング＝誰でも行いやすい」の共通認識のもと現行施策の拡充について協議。

- 高齢期への備え

- 市営バス

- ⇒市民自らの利用が増加するような、施策を検討すること。例：回数券など

- No.58「障害者の社会参加のための外出支援」

- ⇒発達障害やLGBT など目に見えない障害者への対応の底上げ対策が必要。

- 起業のアドバイス

- ⇒香南市内で起業を促す啓発や助成制度の拡充。